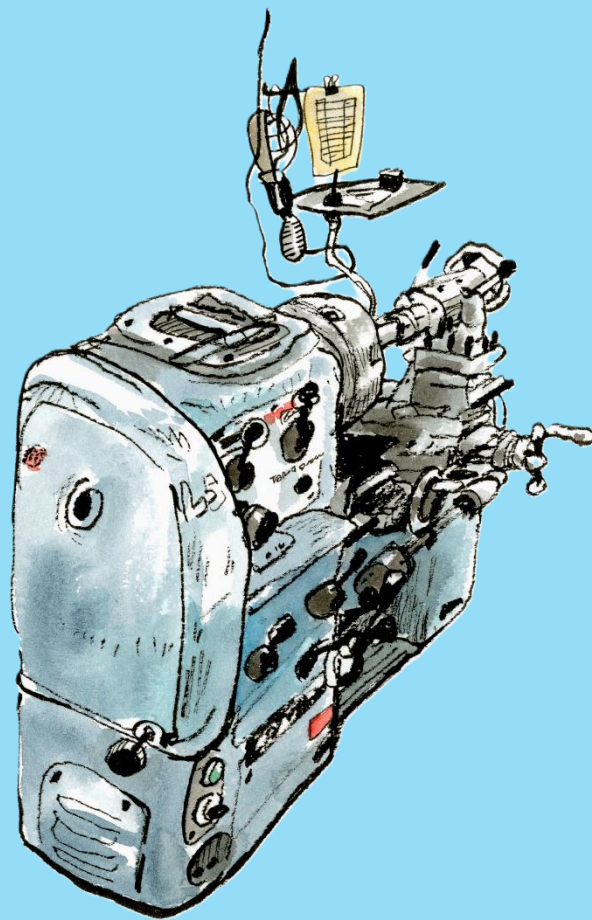


3. 地域連携部門



3.1 地域連携部門の活動報告

地域連携部門 責任者

しくみ解明系領域 准教授 澤田 研

当センター発足当初から、北海道地区を中心とする小・中・高校へ出前講義・模擬講義を積極的に行うことや、地域企業への技術・研究活動の宣伝、研修会を通して地域への技術・研究の知的情報発信を行ってきた。

2022年度は、地域向けものづくり教室、テクノカフェ、出前講義や出前ものづくり教室を行った。

地域向けものづくり教室

「ものづくりのまち」室蘭にある室蘭工業大学は、工科系大学として近隣の小中高校との交流、地元企業・機関などとの連携や市民とのふれあいなど、学外活動にも活動範囲を広げている。次世代のものづくりを担う人材育成を行うには、小・中学生の早い段階でもものづくりの楽しさや達成感を味わう機会を多く経験させることで科学技術やものづくりに興味を持った子供たちが工科系大学へ進学することが重要なことであり、本学のものづくり基盤センターが展開する地域向けのものづくり体験教室の参加者が、年間500人程と多くいるため益々向上している。また、リピーターの比率も多いことから高い関心が得られていることがわかる。さらに地域貢献に努めることにしており、今後もこの取り組みには期待が出来る。

ものづくり体験教室は、学校の授業と実際のものづくりがどの様に結びつくかなどわかりやすく伝え、子供達に理系の面白さともものづくりの楽しさを体感し知ってもらうことを目的としている。地域の小・中・高校生をはじめ、PTA、教職員、企業の方々など老若男女が幅広く参加できる。ものづくり体験教室の主なラインナップは、オリジナルキーホルダー制作、オリジナル文鎮制作、ジンギスカン鍋の制作、銅鏡・銅鐸制作など様々な体験内容を用意している。今年度も、北海道の179市町村のシンボルマークであるカントリーサインを型に用いて文鎮制作を行い、参加者から高い評価をいただいている。

ものづくり体験教室では、平成18年1月のセンター開設以来、参加者が増えて、これまでの累計で約2万人となっている。

図1は、全道におけるものづくり体験教室に参加した人数と場所を示したグラフである。児童・生徒数が少ない教育中心都市部から遠距離地域の児童に対してもものづくり教室を積極的に行っている。

これまでに道内の学校で開催したものづくり体験教室、および講演の風景を図2～4に示している。図2は大樹高等学校にて行われた、ものづくり体験教室である。段ボールを使用して熱心に卵パックを製作していた。地域のみならず遠距離地域の若者にも日本の良さでもある「ものづくり」の楽しさを伝えることができた。

2022年度は、全道各地の高等学校にてものづくりに関する講演会を行った。また、本学との連携事業の一環として、大樹町においては大樹小学校・大樹中学校・大樹高等学校での出前ものづくり講義、札幌工業高等学校でのキュポラ操業実習、室蘭栄高等学校では模擬講義などを行った(図2～4)。

今後も地域貢献として「ものづくり体験教室」の活動を一層広めていき、その充実と発展に向けてこれまでの成果と経験を活かし、継続的に開催していきたいと考えている。

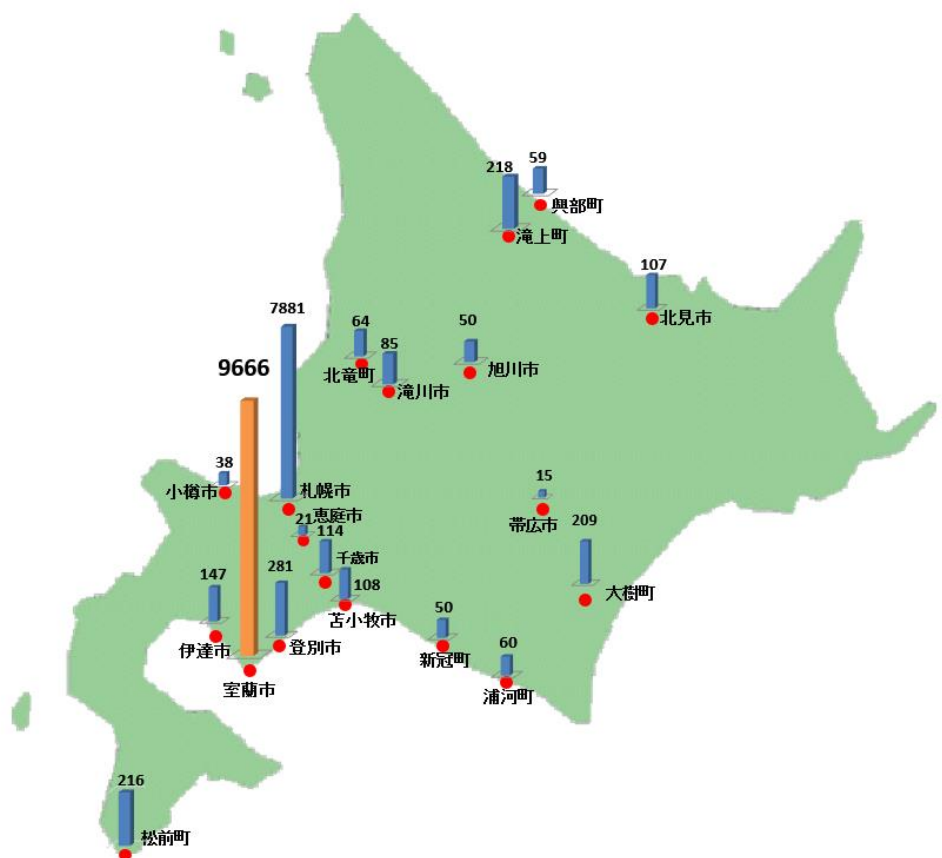


図1 ものづくり教室 開催地域及び参加者数(平成20年～現在)



図 2 出前ものづくり体験教室 大樹高等学校



図 3 出前ものづくり体験教室 大樹小学校



図 4 キュポラ操業実習 札幌工業高等学校